

## 5 実施体制

### (1) 緊急時に備えた対応

イベントの特性に応じて、トラブルや事故の可能性を検討し、危険防止対策を講じます。

発生してしまったときの対応策や、災害発生時の避難方法や避難経路も、あらかじめ検討し、決めておきます。

#### 対応方法

##### 【災害発生時の備え】

- 事前に会場側、関係機関（警察、消防、建設事務所等）と、災害時の避難指定場所、避難ルート、誘導方法、警備員の配置場所、消火器の設置場所、AEDの設置場所、救急車を呼んだ場合の導入ルートや救急車輻の停止位置を打ち合わせ、**運営マニュアル等に記載**します。
- イベント開催中の参加者の動きを想定し、危険な箇所や事態が想定される場合には、多くの**警備員を配置**するなど、注意を促します。
- 不測の事態が発生した場合の**報告先や伝達方法をスタッフ間で周知徹底**し、緊急時体制を明確にしておきます。
- 火災や地震などの災害が発生した場合、参加者やスタッフが安全に避難できるかを確認します。特に、**障害者や高齢者、子どもの安全確保が優先的**にできるように配慮します。
- 障害者や外国人へ、災害や避難誘導の情報を迅速かつ正確に伝えることができるよう、館内放送などの音声情報だけでなく、サインボードなどを使った視覚情報や多言語情報などでも提供できるように対応を決めておきます。  
また、外国人や小さな子どもにも伝わる「やさしい日本語」による情報の提供に努めます。
- 最寄り医療機関の場所や診療時間、休日・夜間の指定医療機関を把握しておきます。

## 【救護スペース】

- けがや体調不良の人等に対応できるよう、救護スペースを確保し、医療スタッフの配置や医療機関への連絡体制を確保しておきます。
- 救護スペースには、横になって休むことのできるベッド等を設置し、応急処置に必要な医薬品を用意しておきます。
- 自分の症状が伝えることが困難な人のために、次の対応を検討します。
  - ☑ 手話通訳者等が必要な時にすぐかけつけられるよう連携を図る
  - ☑ 体の様子（頭が痛い、吐き気など）を記載したコミュニケーションボード（下図参照）や、筆談のためのメモ用紙、筆記用具を準備する

(参考) コミュニケーション支援ボード 「指さす会話板」(嬉野市役所)



高齢者や聴覚障害者、外国人など会話が難しい方々の不安を軽くするために作成されたツールです。

詳しくは嬉野市ホームページをご覧ください。

<http://www.city.ureshino.lg.jp/3606/19727/19903.html>

指さす会話板<救急・病院編>

## (2) スタッフ

様々な参加者が、どの場所でどのような不便を感じるかを事前に確認します。確認の結果、対応できていない事項について、スタッフ間でどのように対応するかを検討します。

### 対応方法

- スタッフ用のマニュアルを作成し、事前打合せや説明会により、不便を感じる箇所及びその対応方法を共有するとともに、対応時の役割分担を決めておきます。
- 会場の状況によって、障害者が自力で移動できない場合などの対応方法をあらかじめ研修しておきましょう。  
⇒車いすの扱い方等については、4-9 ページ参照  
⇒障害種別の特性や対応における配慮については、はじめに-4 ページ参照
- 参加者が容易にスタッフを見分けることができるよう、腕章、名札、帽子、ジャンパーをそろえるなどの方法を検討します。(再掲)
- 困っている参加者を見かけたら、スタッフから積極的に、笑顔で声をかけましょう。

## (3) ボランティア・CSO

参加者のニーズに対応するために、積極的にボランティアに参加していただき、また、多様な知識やノウハウを持ったCSOと協働しながら進めましょう。

### 対応方法

- 参考資料「イベントのUD対応相談窓口」を活用ください。
- ボランティアやCSOと協力・協働しイベントを開催する場合は、できるだけ企画・準備の段階から参加してもらいましょう。

職員の気づき

**(1) 緊急時に備えた対応**

- 不測の事態が発生したとき、その対応にあたった職員の担当業務が滞り、イベント運営に支障がでてしまった。対応者だけでなく、対応者のカバー体制についても認識の共有が必要だった。
- 参加者のほとんどが女性で、救護室に来る方も女性の中、救護室で対応される方が男性だと抵抗が大きかった。女性の参加者が多い大会では、女性の看護師などに対応をお願いした方がいいことがわかった。

**(3) ボランティア・CSO**

- ボランティアの学生を集めるのに苦勞したが、地元の中学生や高校生などが学校のサークルを通して参加してくれて、大いに助かった。

